

# 漁況予報 い わ し

## 第196号

【2016年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

### = 概 況 =

#### 【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は22トンと前年(740kg)を大きく上回りましたが平年<sup>※1</sup>(39トン)は下回りました。6月は110トン(速報値)で、前年(970kg)及び平年(59トン)を大きく上回り好漁となりました。

まき網は、東京湾で餌イワシとして1トン、相模湾で70トンの水揚げがありました。相模湾で5月に大羽マイワシのまとまった漁獲があったのは2011年以来のことです。

卓越年級群とされる1歳魚(2015年級群)の来遊は相変わらずありませんでしたが、当歳魚(2016年級群)の漁獲が始まりました。魚体は、6月は被鱗体長<sup>※2</sup>(以下同)10-12cmの早生まれ群(前年12月生まれ)主体でしたが、7月上旬には遅生まれ群(本年2月生まれ)の同10cmの魚も混じるようになってきました。

#### 【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は160トンで、前年(333トン)及び平年(532トン)を大きく下回りました。続く6月も370トン(速報値)で、前年(417トン)及び平年(455トン)を下回りました。

魚体は、10-11cmの小型成魚主体でした。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲し、佐島地区(1ヶ統)では2ヶ月計10トンの水揚げがありました。

#### 【シラス】

4月に入っても藤沢以東で不安定な漁模様が続いた相模湾のシラス漁ですが、5月に入り徐々に漁模様が上向きました。多くの地先で好漁となり、5月の漁獲量(標本船データより推定)は前年及び平年を上回りました(前年比1.4倍、平年比1.3倍)。

6月に入ると、例年どおり5月に比べると漁獲水準は落ち、特異的に好漁となった前年を大きく下回ったものの、平年並の漁獲量となりました。(前年比0.6倍、平年比1.1倍)

結局、春漁(3-6月)としては、3月のマシラス好漁が影響し、前年及び平年を上回りました(前年比1.3倍、平年比1.2倍)。

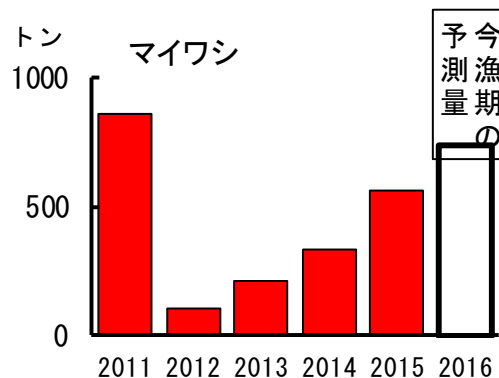
# = 予 報 =

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と  
今漁期の予測量

## 【マイワシ】

今漁期は、2016年生まれの小羽マイワシ（10～13cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を上回る約735トンと予測されます。

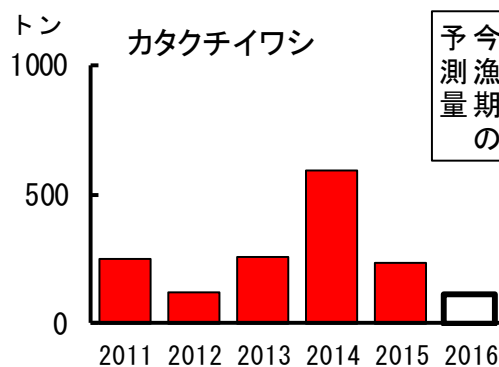


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

## 【カタクチイワシ】

今漁期は、前半は小型成魚（9～10cm）、後半は未成魚（6～8cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を下回る約107トンと予測されます。



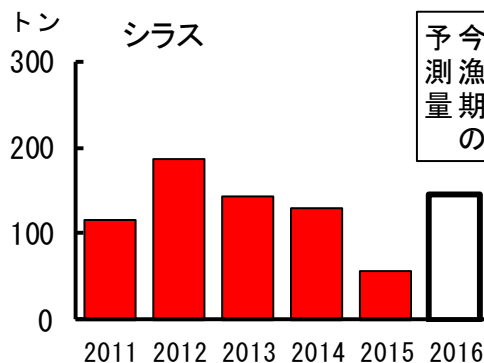
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

## 【シラス】

今漁期は、5月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

昨年は、断続的に黒潮系水の強い流入があったため、特に8月中旬以降は全くシラスの反応がなくなりましたが、今漁期はそのような海況にはならない模様です。

今漁期の漁獲量は、5～6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年を大きく上回る約145トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部  
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313



2016年6月24日に相模湾の定置網に入網したヒラゴ

